

第30回特許庁情報システムに関する技術検証委員会

議事概要

1. 日時・場所

日時：令和3年3月15日（月）10：00～11：45

場所：WEB 会議室

2. 出席委員

大山 永昭	東京工業大学 科学技術創成研究院 特命教授（委員長）
石野 普之	株式会社リコー グループ執行役員
小尾 高史	東京工業大学 科学技術創成研究院 准教授
菊川 裕幸	一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会 専務理事
矢澤 篤志	カシオ計算機株式会社 生産本部 シニアオフィサー

3. 議題

- (1) 特実審査業務システム刷新プロジェクトについて
- (2) 四法公報システム刷新プロジェクトについて
- (3) 意商（V3）システム刷新プロジェクトについて

4. 配付資料

- 資料1 特実審査業務システム刷新プロジェクトについて
- 資料2 四法公報システム刷新プロジェクトについて
- 資料3 意商（V3）システム刷新プロジェクトについて

5. 議事概要

(1) 特実審査業務システム刷新プロジェクトについて

- 定量的な品質評価を行っており、発生した課題にもしっかりと対応できている。引き続き気を抜かずに進めてほしい。
- 大規模なシステム開発では、リリース1か月半前は大抵慌てるものだが、本プロジェクトでは、うまくマネジメントできている。
- 正しいデータの移行ができているか、丁寧に検証しながら、引き続き進めていただきたい。
- 当委員会は、本プロジェクトが概ね着実に進捗していると評価する。当委員会の助言・指摘の趣旨を十分踏まえ、5月、7月のリリースに向けて今後も着実に進めていただきたい。

(2) 四法公報システム刷新プロジェクトについて

- テスト結果を分析しながら対応できている。報告を聞く限り、今のところ大きな課題を感じない。
- 官民間問わず DX が推進される中、今後、本プロジェクトのように業務効率化を目的とするシステム開発案件が多くなることが予想される。それらの優先度をはかる仕組みについても検討するとよい。
- 当委員会は、本プロジェクトは概ね着実に進捗していると評価する。当委員会の助言・指摘の趣旨を十分踏まえ、来年1月のリリースに向けて今後も着実に進めていただきたい。

(3) 意商 (V3) システム刷新プロジェクトについて

- 民間の立場からすると当然の取組ではあるものの、これだけの規模で要件削減を行ったことは高く評価できる。一度仕分けをした後に、再度他の視点から仕分けを行った点も素晴らしい取組である。
- グレーに仕分けられた部分をシステム化する判断は妥当であると考えるが、例えば書類チェックに機械学習を取り入れられる構成とするなど、将来の機能拡張性を担保する仕組みも検討するとよい。
- ベンダーロックインを避けるためには、発注者がベンダーに丸投げせず、業務の内容をきちんと表現できるかが鍵である。
- ハードウェア経費の削減という観点からは、機器の集約に留まらず、クラウドの活用にも踏み込んで、特許庁のハードウェア全体を計画的に見直していくとよい。
- 開発費・運用経費の削減には引き続き努めていただきたい。
- 規模削減のための取組をしっかりと進めていることを評価するとともに、当委員会の助言・指摘の趣旨を十分踏まえ、今後も本プロジェクトを着実に進めていただきたい。

以上